

様式1 令和3年度 山梨県立甲府昭和高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	学校の教育力、組織力のさらなる向上を図りながら、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を目指す。
-----------	--

山梨県立甲府昭和高等学校校長 荻野 智夫

本年度の重点目標	1 甲府昭和高校Can-doリストを活用し、生徒の学びに向かう力、資質・能力の育成を図る。
	2 さわやか教育を実践し、自ら考え行動できる生徒の育成を図る。
	3 地域や関係機関と連携して、安全で安心して学べる教育環境の構築に向けた取り組みの充実を図る。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価				年度末評価(2月17日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	思考力・判断力・表現力の育成	育成すべき資質・能力を明確にした授業実践	相互授業参観への参加 生徒授業アンケート 教職員・生徒アンケート	生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶよう授業を工夫している点は、生徒・保護者から8割以上の評価を得ている。一方、Can-doリストに関する活用や周知については昨年度より向上したものの、課題が残る。	B	・保護者向け進路学習会等を通じて、Can-doリストについて啓発していく。 ・授業や部活動等を通じて、教職員から生徒に対しCan-doリストの評価指標を示していく。
		資質・能力に係る評価を実践	教職員・生徒アンケート			
	授業改善の実践	相互授業参観を通じた授業改善	相互授業参観への参加	授業が楽しいと感じている生徒が8割、質問しやすい、授業以外でも教えてくれると感じている生徒が9割弱いる一方、授業におけるICT機器の活用については、肯定的な回答をしている生徒は7割強にとどまっていることから、ICT機器を活用した授業実践にさらに取り組んでいく必要がある。	B	・コロナ禍による分散登校等の経験を通して、生徒の学びを止めないハイブリット授業を行えるようになったが、次年度のBYODを見据え、ICT機器を活用した通常授業を展開できるよう引き続き取り組んでいく必要がある。
		振り返り時間を確保した授業実践	生徒授業アンケート 教職員・生徒アンケート			
ICT機器を活用した授業実践		ICT支援員との連携 教職員・生徒・保護者アンケート				
学習の適切な評価と指導の工夫	指導と評価の一体化を目指した評価指標、規準、規準の設定と実践	生徒授業アンケート	先生方の授業や試験問題の工夫により、生徒は思考力や表現力が身につくつつある。	B	・学習指導要領改訂に向けて、多様な観点で生徒を評価できるよう準備を更に進めていく必要がある。	
2	基本的生活習慣の確立	登校時指導週間の活用、面談による指導	教職員・生徒・保護者アンケート 遅刻者数	5分前遅刻件数、遅刻者の延べ人数ともに増加しており、基本的生活習慣や規範意識の低下が見られる。	B	・生徒が主体的に取り組んでいけるような取り組みを企画していきたい。
	主体的な行動につなげる取組	あいさつ・清掃・身だしなみを意識した校内環境整備	教職員・生徒アンケート	・悩みやストレスを抱えている生徒(保護者)に対し、学校カウンセラーを活用し、改善に繋げている。 ・モラルやマナーについて、生徒自ら考えていく教育活動を推進していく必要がある。	B	・悩みやストレスを抱える生徒はますます増え、多様化していくと予測されるため、教職員の対応力や共通認識を高めた。
		情報モラルを含めたモラルアップ・マナーアップの推進	教職員・生徒アンケート			
3	防災計画・危機管理マニュアルの見直し	「水防法」、「土砂災害防止法」を踏まえた学校安全計画の見直し	教職員・生徒・保護者アンケート	総合避難訓練では洪水ハザードマップを用いて、通学路の危険箇所、避難場所の確認等を行った。	A	・地震避難訓練に加えて、浸水垂直避難訓練を実施したが、より実践的な訓練を検討する必要がある。
	心身の健康の保持	ホームルームでの指導、体育を中心とした健康の保持増進に係る指導の充実	欠席者数、皆勤者数、 教職員・生徒・保護者アンケート	・合理的配慮を必要とする生徒に対し、組織的な確認・対応ができた。また、コロナ禍で学校でできる感染防止対策を徹底し、対応できた。 ・交通事故、違反に関しては、件数は昨年度並みだが、地域住民から苦情を受けることがしばしば見受けられた。 ・障がい者雇用を活用して3人に1台のPC管理を担当に任せる体制ができた。	A	・コロナ禍の影響で悩みやストレスを抱えた生徒が増加しており、SCに早期につなげていく必要がある。 ・交通事故に関しては周囲の状況を確認させるとともに、違反については、バイク集会等を有効活用していきたい。 ・先生方のタイムマネジメント意識が浸透しつつある。
		自転車・バイクでの登下校時の安全指導	事故・違反件数			
		教員の意識改革と障がい者雇用の活用による働き方改革の推進	教職員アンケート			
関係機関及び昭和町との連携事業の推進	連携事業の推進と改善	小中高合同会議での事業への反省、教職員・生徒アンケート	生徒同士の交流事業は中止となったが、中学校訪問授業は実現できた。	A	・コロナ禍における異校種間連携の在り方について検討が必要である。	

学校関係者評価	
実施日 (令和4年3月7日)	
評価	意見・要望等
4	・知徳体の調和のとれた生徒の育成という目標・方針は基本的で妥当なものだと思います。 ・Can-doリストは資質能力の向上を図る有効で重要な取組ですが、生徒アンケート結果で「活用している」と回答した割合が低いようです。もう一工夫して啓発してほしい。
3	・コロナ禍という現状の中においてはどうしても高評価しにくい項目があるのは仕方ないと思います。 ・ほとんどの項目で概ね達成できたことは、先生方の努力のお陰、学校全体で取り組んだ成果だと思う。 ・評価の過程で色々な課題が見えることは基本的な目標を具体化するためには必要であると感じる。
4	・1の「学習の適切な評価と指導の工夫」は達成度Aでもよかったと思います。
3	・基本的生活習慣については生徒の95%が肯定的ですが、教職員との感覚とは異なっているようです。
3	・ボランティアはコロナのために物理的に困難だった。この項目は来年も少なからずコロナの影響があると思うので、評価の仕方の工夫も必要かと思う。 ・制限された中でも、色々な活動ができてよかったと思う。大きな行事はグループやクラスごとなど活動単位を工夫してなるべく実施できるようにすることが大切だと思う。
3	・通学区域が広範囲に及ぶことから、生徒個々が通学路に対して危機意識を持ち、危機回避能力が向上するように指導してほしい。
3	・いじめ、ヤングケアラー、障害等、色々な生徒がいて、抱えているものも多様だ。それに対して一つ一つ寄り添う難しさを感じる。今後も生徒一人一人の心に寄り添った指導を望みつつ、こういうところにも連携協力ができるものがあるのではないかと思う。 ・土曜講座は来年度から外部講師に依頼することで、教員の働き方改革にもつなげてもらいたい。
4	・「地域」との連携とは異なるかもしれませんが、中学への出前授業、高大連携講座などが行われ、高い効果を得られているように感じます。

留意点 (1) 重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2) 学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。